

1 鳥井町の概要

鳥井町は面積 5.17 k m²、人口 1191 人、世帯数 506 世帯、自治会数 7 自治会で 65 歳以上が約 40 パーセントを占めている。

地形は日本海に面し、大田市で最初の海水浴場となった 1.5km の砂浜がある。南側は山に覆われているが、町全体としては平坦部が多い地域である。

町内には、鳥井小学校、鳥井保育園そして 2 つの老人ホームがある。

比較的にコンパクトな町であり、町民で行う運動会、盆踊りなどの行事のほか、環境整備（道路や学校及び周辺の草刈）ボランティア団体などの活動が盛んで、地域活動に協力的な土地柄である。

2 事業の趣旨

いずれ来る災害に備えて、まちぐるみで防災力の向上を図る。

住民に安心・安全なまちづくりを目指すだけでなく、組織化によってもたされる新たな「絆」づくりと、まちづくりへの協力者の裾野を広げることを目標に自主防災組織づくりの取り組みを始めた。

- ① 行政指導ではなく住民主導で進める。
- ② 全自治会（7 自治会）が参画する。
- ③ 自主防災組織づくりをコミュニティの強化につなげる。

3 具体的な取り組み

安心・安全なまちづくりを目的に自主防災組織の起ち上げを進めた。

自治会代表から「自主防災組織の必要性は分かるが、無理に組織を起ち上げるのではなく、自主防災について知識を構築して行いたい」との意見を踏まえ、各自治会か

ら 3 名を選出し、自主防災組織設立準備会を結成し、自主防災組織づくりを進めることになる。

①第 1 回 アドバイザーによる研修会

防災・危機管理アドバイザー 林 繁幸氏を講師に招き、自主防災組織の必要性、役員の役割、組織体制などについて指導を受けた。



②第 2 回 アドバイザーによる研修会

1 回目と同じ防災・危機管理アドバイザー 林 繁幸氏を講師に招き「地域で何ができるか」をテーマに、次の項目についてワークショップを実施。

- ・災害を想定した各自治会における被害について
- ・予想される被害に対しての対応など



理想と現実。災害時の対応ができない、脆弱な自治会の現状に改めて気づかされる研修会となった。

③広島市総合防災センターにおいて、防災研修会を実施。33名が参加。

・座学（近年の各種災害の特徴、ハザードマップの見方、鳥井町における危険性、その他）



・消火訓練（消火器の使い方）



・煙体験



・震度6の地震体験



④炊き出し訓練

町民で構成する食育ボランティアの協力により、災害の時に家庭の残り物などで簡単に作れる災害食を考えてもらい、このレシピを作成した。



4 評価と結果

自主防災組織の設立を目標にミーティングや研修会を行い、事業を進めてきたが、年度内に組織の起ち上げまでには至らなかった。しかし、組織の設立を目指して参加者が本気で議論しあうなど、今回の取り組みを通し、地域住民間のつながりが強くなった。

設立準備会のメンバーは、コアメンバーとして、今後もまちづくりに関わってもらおう。このような協力者が地域に潜在していたことを知る、よいきっかけとなった。

5 今後の課題の見通し

30年度には鳥井町自主防災組織を起ち上げ、防災を通じた地域住民とのかかわりを深めていくとともに、各種団体も自主防災組織に加え、地域運営組織づくりなど、次のまちづくりの展開を考慮した組織づくりにつなげたい。

文責：鳥井まちづくりセンター
宅和 徹